

お世話になつてきた

『大川』を盛り上げたい

有限会社 堤建具工業
代表取締役社長 堤 涼一さん

六月に開かれた第四十五回全国建具展示会で、岐阜県知事賞を（有）堤建具工業が受賞した。作品名は硝子障子「風・川・流れ」。

シンプルですっきりしている。筑後川をモチーフにしている、涼やかな印象。筑後川は阿蘇山を水源として九州地方北部を東から西に流れ、大川市を経て有明海に注ぐ勇壮な川である。社長の堤涼一さんは、「作品の醸し出す涼し

いイメージが夏の全国大会にぴったりだったと思います。またすっきりした雰囲気新鮮に見えたのでしよう」と受賞の理由を分析する。

過去、七度全国大会に出品しているが、そのうち六度も入賞している。デザイン、技術力は卓越している。そして製品のほとんどは、堤さん自身がデザインしたものだ。堤さんはどのようにデザインを手がけるのだろうか。「お

お客様の意向を十分に反映するように努めています。若い頃からお客様とは、十分話し合いをするようにしてきました。そうした中、お客様の意図が理解できると、こちらからも積極的に提案もできます」といわれる。そしてデザインのインスピレーションはテレビを見ているときなど、いろいろな機会にふと浮かぶそうだ。

さて、この受賞作品は、実





第45回全国建具展示会 岐阜県知事賞「風・川・流れ」



木田隆男さん

は親戚から新築の家用に依頼されたもの。親戚だけあって、「好きなようにつくってほしい。全部おまかせ。」ということであった。
堤さんは、夏を意識してデザインをした。白のアクリルをバックに、その上を走る横木（ホワイトアッシュ）の長短、大小の変化で、筑後川水系のしなる流れを表現してい

る。竹も使っている。「白のアクリルは取り外しができ、風を通すこともできます」。イメージだけでなく、実際に「涼」を得ることができきる。
制作を担当したのは、木田隆男さん（二十二）は、「ベテランの職人さんたちとコミュニケーションを取りながら、作り上げることができました。担当は私でしたが、総合力で、仕上げた感じですね。」と話される。
「材の変化をつけるため、固定しながら、機械で一つ一つ作っていく作業が難しかったです。」と苦労した点を話される。



堤建具工業は、若手とベテランのバランスのとれている企業だ。建具業界では珍しい。半々の割合だそうだが。それは、「若い人への技術の継承」を重視する堤さんの方針があるからだ。「機械設備は近代化しても、昔からの建具の技術を次世代に継承していくのは非常に大切です。それが私たちの務めだと思っております。」と力強く話される。
そして堤さんの目標は、来年福岡で開かれる全国大会に向けてい



る。「入賞うんぬんより、お世話になってきた『大川』を盛り上げたいという気持ちでいっぱいですね。業界挙げて、盛り上げ、大川をPRできればいいと願っています。そして少しでも大川に仕事の流れてくれればいいと思っております」。